

書 面 意 見 書（まとめ）

令和 5 年 9 月 13 日付け中央地公交第 9－1 号で開催しました中央市地域公共交通活性化協議会
書面会議における次の議題について、各委員からの意見は以下のとおりです。

議 題：（１）中央市地域公共交通計画について

協議事項：施策・事業（候補案）

施策	事業	実施主体
1. 広域交通の維持・向上	1. 鉄道・路線バス事業者との連携強化	市・交通事業者
	2. 山梨県・周辺自治体との連携	市
意見 ・市内交通機関である、JR 身延線、山梨交通バスの運行について増便の働きかけが必要。		

施策	事業	実施主体
2. 地域間交通および地域内交通の充実化	1. とまチュウバスの再編	協議会・市・交通事業者
	2. 新たな公共交通サービスの導入検討	協議会・市・交通事業者
意見 ・自治会長会臨時会における意見内容が概ね含まれており賛成。 ・「デマンドタクシー」の導入など、交通弱者といわれる方々にとって利用しやすい体制構築が必要。 ・とまチュウバスの再編について具体的な内容が不明確。 ・新たな公共交通サービスの導入検討の参考事例に甲斐市のデマンド交通があるが、市民バスの利用率の低迷とデマンド交通の関係性及び検証結果を記載してはどうか。 ・定時定路線型のコミュニティバスでは現状の市民ニーズへの対応は困難であると感じる。 ・これまでの利用状況(利用者数)からも、再編ではなく新たな公共交通サービスへの転換など廃止を含めた抜本的な見直しが必要ではないか。 ・市民ニーズに対応する具体的なサービスとして、過去の協議会においても意見のあったデマンド交通の導入について具体的に記載してはどうか。		

施策	事業	実施主体
3. 快適な乗継環境の整備	1. 交通結節点による待合環境整備	市・交通事業者
	2. 総合マップ・総合時刻表の作成、配布	市
	3. 乗り継ぎ割引の導入検討	市・交通事業者
	4. キャッシュレス決済の導入検討	市・交通事業者
意見 ・待合環境整備について、バス停などへのベンチ設置はとてよい（必要）。 ・交通結節点による待合環境整備に関して取り組み内容の具体例（物理的・情報提供）が必要。 ・乗り継ぎの課題について明示したほうがよい。		

施策	事業	実施主体
4. 民間企業・地元住民との協働	1. 民間送迎サービスの活用検討	市・地域・交通事業者
	2. ボランティア輸送サービス導入検討	市・地域・交通事業者
	3. 車内広告・車外広告の募集・掲載	市
	4. 周知・意識啓発チラシおよびポスターの作成、配布	市
	5. 利用促進イベントの開催	市・交通事業者
	6. 市内施設・各種団体と連携した企画乗車券の導入	市・地域・交通事業者
意見 ・ボランティア輸送サービスは既存公共交通との切り分け（役割区分）を明確化する必要がある。 ・周知・意識啓発として小中学校向けの具体的な取り組みを記載してはどうか。 ・企画乗車券に限らず、目的地側（市内施設・各種団体）とのサービス連携が必要。		

施策	事業	実施主体
5. 誰もが利用しやすい環境の整備	1. バリアフリーの推進	市・交通事業者
	2. 運賃体系の見直し	市・交通事業者
意見 ・バリアフリーの推進では、ハード面・ソフト面での取り組みが位置付けられており賛成。		

施策	事業	実施主体
6. 先進技術の活用検討	1. 自動運転技術の研究	市・交通事業者
	2. M a a s 導入検討	市・交通事業者
意見 ・昨今の社会的な課題でもある脱炭素に向けて、環境に配慮したE Vバスの導入を検討してはどうか。充電設備の設置も要するが、小型E Vバスの開発も進んでおり、地域のコミュニティバスとしても注目されると思われる。 ・自動運転技術の研究における参考事例が茨城県境町の誤りではないか。 ・現状では具体的なM a a s 像が不明確であるため、導入検討については尚早に感じる。		

全体（その他）
意見 ・課題から施策・事業に至るまでを示した体系図の内容が分かりづらいため、整理が必要と感じる。 ・鉄道・路線バス事業者との連携強化や、M a a s 導入検討にあたっては、鉄道事業者の協議会への参画を検討すべきではないか。 ・原案に賛成する。 ・今後事業を展開する上で、収益性（採算性）に対する考え方は非常に重要と考える。収益性（採算性）を重視するか否か方向性を示してほしい。 ・収益性を度外視して「とまチュウバス」を運行するのではなく、福祉サービスの拡充やデマンドタクシー等で利用しやすい体制構築をしたほうがよいと考える。 ・「地域公共交通」における交通弱者について理解した。 ・「地域公共交通」は山梨県全体を意識し連携することが重要なポイントであり、特にリニア中央新幹線は中央市にとって影響が大きいため課題の検討が必要。 ・高齢化が進むなか公共交通を外出手段として検討する必要がある。 ・豊富地区中学生の自転車通学は危険性を感じることから、公共交通を通学手段として検討してどうか。 ・障がい者についても利用しやすい手段や方法の検討が必要。 ・基本方針①「交通弱者の救済」について、日常生活の支援をするという視点で記載したほうがよいと感じる。 ・基本方針④「広域的な視点」「地域間の視点」「地域内の視点」によるネットワークの構築に関しては、それぞれの手段間連携を記載したほうがよいと感じる。